

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

北経連会報 | Aug. 2024

No. 224



北陸は一つ。

CONTENTS

北経連会報

No.224 Aug 2024

2024年度定期総会



2024年度定期総会・ 第114回理事会 / 特別講演

日時：6月5日(水) 13:30-16:20
会場：ANAクラウンスラザホテル金沢
参加者：171名(会場135名、オンライン36名)

冒頭、会長から能登半島地震に関する義援金協力への御礼、政府要望・復興ビジョン策定の報告、事業計画の概要等を交えた挨拶があり、その後の議事で以下の4議案について原案の通り承認された。

第1号議案：2022年度事業報告および決算(案)

第2号議案：能登地域会員の2024年度会費免除(案)

第3号議案：2023年度事業計画案および収支予算(案)

第4号議案：役員選任(案)

役員選任では、新任の理事に丸紅(株)北陸支店長の上垣雅裕氏、三井物産(株)北陸支社長の太田俊也氏、ホクショー(株)代表取締役社長の北村宜大氏、(株)アーバンホーム代表取締役社長の藤井佳代子氏、三菱商事(株)北陸支店長の三原克久氏、(株)クスリのアオキホールディングス取締役管理部門担当の八幡亮一氏が選任された。

続く第114回理事会では、役付理事・参与選任

(案)が審議され、原案のとおり承認された。常任理事の交代については、石川県商工会連合会会長の田上好道氏から長基健司氏、福井県商工会連合会会長の佐飛敏治氏から白崎誠一氏、(株)インテック顧問の牧野賢藏氏から取締役会長の北岡隆之氏、YKK(株)顧問の浅野慎一氏から副社長黒部事業所長の小林聖子氏への交代が承認された。

委員長人事については、人財活躍推進委員長に(株)福井銀行取締役会長兼代表執行役の林正博氏が就任する旨、報告された。

この後、外交ジャーナリスト・作家の手嶋龍一氏が、『インテリジェンスを武器に読み解く国際政局～台湾・中東・ウクライナ・朝鮮半島情勢～』と題して特別講演を行った。



北陸経済連合会 設立の経緯

1967年、「北陸は一つ」との認識のもと、北陸の経済人が結集し、経済人の創意のもとに北陸の発展可能性を追求し、公正なる見解をとりまとめ、その実現に努力する場」として北陸経済連合会が設立されました。

会長挨拶

はじめに

皆様、本日は大変ご多用のところ、北陸経済連合会定期総会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方には日頃から当会の活動に対しまして、格別のご高配・ご協力を賜っております。重ねて御礼申し上げます。

経済状況

さて、はじめに国内の経済状況についてであります。中東情勢の緊迫化や中国の不動産不況などの海外要因に加え、国内要因として足元で進む円安・資機材高による事業コストの増加などの課題を抱えております。また、貿易サービス収支は今後も赤字基調が継続する可能性が高く、収支構造の強靱化や国際競争力の維持強化に向けた取り組みの重要性が増してきております。

このような中で、経団連が先般まとめました2024年春闘での賃上げ率は、ベースアップと定期昇給を合わせまして5.58%となりまして、33年ぶりの高水準となりました。今春闘での想定以上の大幅な賃上げにより、今後の消費者物価指数の推移にもよりますが、今夏から秋にかけて、実質賃金はプラスの領域へ移行し、個人消費の拡大による内需の拡大が期待されております。

内需の拡大による経済成長と賃金上昇の好循環を実現させるため、従業員一人当たりの生産性を向上させ、賃上げの原資であります付加価値の増加を図る必要があり、新技術開発に関する投資や事業効率化投資などを進める必要があると思っております。

次に、北陸の経済情勢につきましては、能登半島地震からの復旧・復興の途上にあるものの、復旧・復興需要や生産の

正常化が進み、着実に持ち直しております。

具体的には、個人消費につきましては、百貨店スーパーの販売が持ち直し、観光需要もインバウンドの回復や北陸応援割、

北陸新幹線の敦賀開業効果等で持ち直しております。その他、公共投資が復旧復興関連工事により足元で増加しているほか、生産につきましても電子部品・デバイス等の工場が生産が再開されるなど、正常化が進んでおります。

能登半島地震関連

次に、能登半島地震についてであります。本年1月、会員の皆様に災害義援金へのご協力をお願いいたしました。多くの皆様にご賛同いただき、各地域の経済連合会から寄せられました分とあわせ、石川県ならびに富山県に寄付させていただきました。大変ありがとうございました。

また、4月初旬に経団連の十倉会長と共に輪島市、七尾市を訪問したほか、中旬には珠洲市、志賀町、能登町、穴水町を訪問いたしました。訪問した6つの市長・町長からは、被災・復旧状況のほか、様々なご要望を伺いました。また、私からは1月と3月の2回、政府・与党に対し地域の声を届けたこと、また各種支援制度における不都合な点などを今後もしっかりと政府・与党に要望していくことをお伝えいたしました。

当会といたしましては、今後も能登地域の復旧・復興に向け精一杯取り組んでまいります。

また、能登地域の創造的な復興に向け、これまでの能登の歩みや強みを生かしつつ、能登地域を一体で捉え、将来いかにあるべきか、特に若い世代がいかに将来に希望を持てるかといった観点から、この度、「能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン」を取りまとめました。このビジョンにつつま



しては、後ほどご説明をいたします。

今年度事業計画

次に、2024年度の当会の事業計画についてであります。今年度も引き続き、第五次中期アクションプランで掲げます3本の柱、「社会基盤整備の促進」、「労働生産性の向上」、「多様性と一体性の両立」に取り組んでまいります。

詳細につきましては、後ほど事務局からご説明をいたしますが、私からいくつかの点について話をさせていただきます。

北陸新幹線

まず、北陸新幹線についてであります。先般の金沢・敦賀間の開業により、これで北陸地域のほぼ全域を新幹線が走ることとなりました。整備計画の決定以来、多くの紆余曲折がありましたが、平成元年の高崎・軽井沢間の着工以来、35年の歳月を経て、ようやく敦賀まで全線フル規格での整備となりました。これもひとえに、これまで北陸新幹線の建設にご尽力をいただきました多くの皆様方のおかげであります。深く感謝申し上げます。

開業当日の沿線各駅では大変多くの人々で賑わい、改めて新幹線に対する期待の大きさを感じたところでもあります。今回の敦賀開業により、北陸三県の主要都市が概ね1時間で結ばれることから、連接型都市圏の形成による北陸三県の地域力向上が大いに期待され、今年の秋に予定しております北陸Destinyキャンペーンなどの具体的な取り組みを通して、着実な地域の発展につなげてまいりたいと考えております。

次に、敦賀・新大阪間についてであります。北陸新幹線には、国土強靱化の観点から、大規模地震など太平洋側の有事に備え、首都圏と関西圏を結ぶ東海道新幹線の代替機能の確保、また、東京への一極集中の是正、日本海国土軸の形成、さらには持続可能で暮らしやすい地域社会の創生など、多くの機能が期待されておりますが、これらの機能は改めて

申し上げるまでもなく、新大阪まで延伸して初めて本来の機能を全て発揮するものであります。また、経済波及効果の観点からも、人の移動が活発になる効果はほぼ全国におよび、当会が関西経済連合会、大阪商工会議所と共同で行った評価では、大阪までの全線開業前倒しによる経済波及効果は年間約2,700億円と、非常に大きなものとなっております。

現在、敦賀・新大阪間は環境影響評価に加え、昨年度から新たに駅の位置や工法の検討に必要な調査を先行的・集約的に実施する「北陸新幹線事業推進調査」が進められております。当会といたしましては、一日も早い着工に向け、関係機関に対してできるだけ早期の駅位置・ルートの決定および環境影響評価書の作成を求めてまいります。

企業の労働生産性向上

次に、労働生産性の向上についてであります。生産年齢人口の減少が避けられない中、企業が持続的に成長していくためには、DXの推進による労働生産性の向上とともに、技術革新による新事業創出が必要であります。このため、「北陸RD X」や「北陸未来共創フォーラム」に加え、新たに「テック・スタートアップ北陸」のプラットフォームを活用し、オープンイノベーションの促進、人材育成などに取り組んでまいります。

また、本年10月にはフィンランドを訪問し、同国の先進的な取り組みを当会の政策に反映させていきたいと考えております。

おわりに

以上、簡単に本年度の事業計画等についてご説明をさせていただきました。今年度も引き続き皆様方の変らぬご支援・ご協力をお願いいたします。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いたします。

以上

2024年	3月4日(木)	北陸未来共創フォーラム2023年度成果報告会	P.05
	3月6日(水)	能登半島地震に関する要望活動	P.05
	3月12日(火)	『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2024(北経連共催)	P.06
	3月16日(土)	北陸新幹線敦賀開業	P.06
	3月22日(金)	2023年度第2回国際委員会	P.07
	3月28日(木)	2023年度第2回新たな価値創出委員会	P.07
	3月28日(木)	新たな価値創出オンライン講演会	P.07
	4月3日(水)	経団連との能登半島地震被災地視察等	P.08
	4月9日(火)	2023年度第2回人材活躍推進委員会	P.08
	4月6日(木)	2023年度第2回観光委員会	P.09
	4月10日(水)	2022年度第3回観光委員会	P.09
	4月11日(木)	2023年度第2回社会基盤委員会	P.09
	4月12日(金)	第15回中部社研時事フォーラム「スタートアップが中部圏に根差し、活力を与え続けるために」(後援:北経連)	P.09
	4月19日(金)	志賀町・珠洲市・能登町・穴水町訪問	P.10
	4月24日(水)	2023年度第3回総合対策委員会	P.10
	5月16日(金)	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会合同決起大会	P.11
	5月8日(水)	Tech Startup HOKURIKU キックオフシンポジウム	P.11
	5月9日(木)	第1回政府要望ワーキング	P.12
	5月15日(水)	第112回理事会・第361回常任理事会合同会議	P.12
	5月22日(水)	北陸新幹線建設促進大会・令和6年度北陸新幹線建設促進同盟会総会 北陸新幹線建設促進同盟会等合同中央要請	P.12
	5月30日(木)	2024年度 第1回海外現地情勢報告セミナー～ベトナム特集～	P.13
	6月3日(月)	第2回政府要望ワーキング	P.14
	6月8日(土)	令和6年度福井県北陸新幹線建設促進 同盟会総会	P.14
	6月11日(火)	「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」開催地決定記者会見	P.14
	6月18日(水)	中央日本総合観光機構第8回定時総会	P.15
	6月26日(水)	北陸新幹線延伸開業記念スタートアップピッチ(北経連:後援)	P.15
	7月3日(水)	2024年度第1回総合対策委員会	P.16
	7月5日(金)	第362回常任理事会	P.16
	7月22日(月)	北陸新幹線早期全線開業実現大阪大会	P.16
	7月25日(木)	北陸新幹線建設促進同盟会等合同中央要請	P.17
	7月26日(金)	北陸新幹線建設促進石川県民会議 令和6年度総会	P.17

能登半島地震に関する要望活動

日時:3月6日(水)9:00-17:15
 参加:金井会長、高松副会長、杉野理事他
 主要要望先:日本経団連 十倉雅和会長
 自由民主党 渡海紀三朗政務調査会長、梶山弘志幹事長代行
 公明党 石井啓一幹事長他(能登地震災害対策本部)
 内閣府 村井英樹官房副長官、平沼正二政務官
 財務省 瀬戸隆一政務官、経産省 上月良祐副大臣
 国土交通省 堂茂茂副大臣

能登半島地震からの復旧・復興に向け、会員の皆様から出された具体的な要望を取りまとめ、政府・与党に対し要望活動を行った。

金井会長から以下に関して要望し、高松副会長、杉野理事から北陸企業への影響や被災状況を伝えた。

- ・道路、港湾、水道等の社会インフラの早期復旧
- ・仮設住宅等、住環境の早期整備
- ・地域経済基盤の復旧・復興
- ・観光産業の復旧・復興
- ・新しい地域づくりに向けた体制整備

経団連にも支援を要請し、十倉会長は「できることは何でもする」として、共に政府等に働きかけ、北陸と一緒に取り組んでいくことを約束した。

また、“能登復興・再生ビジョン”策定に向けて、今後のスケジュール等を確認した。

【要望書】<https://www.hokkeiren.gr.jp/news/data/7efc799ae73da7863>



北陸未来共創フォーラム 2023年度成果報告会

日時:3月4日(月)13:30-17:15
 場所:ホテル金沢

北陸4国立大学が中心となって設立し、地方創生に向けて取り組む産学官金プラットフォーム「北陸未来共創フォーラム」の成果報告会が開催された。

フォーラム会長である金井会長は開会挨拶で、「産学官金の団体が数多くフォーラムに参加し、個々の大学や企業では成し得なかった新事業や新製品を次々と生み出し、北陸地域が社会課題の解決方法を示す『地方創生のロールモデル地域』に成長するよう取り組んで欲しい」と期待を述べた。

会場では、8つの分科会※から、2023年度の成果内容、2024年度計画と能登半島地震の復興への貢献等について発表があり、各分科会のパネル展示では来場者と盛んに意見交換がなされた。

※グリーンイノベーション、先端エレクトロニクス、ヘルスケア、観光、地元人材育成、人材流入・地域定着、次世代農林水産、マテリアル)



活動報告

『ビジネス』を護るサイバーセキュリティデイズ2024(北経連共催)

日時: 3月12日(火)、13日(水)
場所: 金沢商工会議所

北経連、国立研究開発法人情報通信研究機構、北陸情報通信協議会、北陸サイバーセキュリティ連絡会の共催で、サイバーセキュリティのスキルと意識の向上を目的に、実践的演習とセミナーを2日間開催した。

講演では最近のサイバーセキュリティ事象と対応策等が紹介され、パネルディスカッションでは対応力向上に向けた社内体制整備の進め方等について専門家が説明した。

北陸新幹線敦賀開業

日時: 3月16日(土) 18:00頃~



北陸新幹線は3月16日、金沢一敦賀間(延長約125km)が開業した。整備計画決定から半世紀を経て、首都圏と北陸三県が繋がる歴史的な日、快晴の下、各駅で式典が開催され、賑わいを見せた。

敦賀駅では、東京行き一番列車かがやき502号(6:11発)に合わせて出発式が行われ、斉藤国土交通相、長谷川JR西日本社長、杉本福井県知事、米澤敦



賀市長、金井北経連会長がテープカットし、新時代の門出を祝った。俳優の中条あやみさん

も駅長と共に出発進行の合図を出し、花を添えた。

また、金井会長は福井駅の出発式にも参加、久和名誉会長が金沢駅の出発式に参加した。在来線を引き継いだ「ハピラインふくい」や「IRいしかわ鉄道」の出発式も盛大に執り行われた。

●会長コメント

「北陸新幹線 金沢・敦賀間開業にあたって」

本日(3月16日)、北陸新幹線が金沢から敦賀まで開業し、北陸三県の主要都市が短時間で結ばれることとなった。これにより北陸三県が一つの経済圏として「連接型都市圏」を形成し、観光や産業面における連携の促進を通して、北陸の活性化につながるものと大いに期待している。

改めて関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

北陸新幹線は、東京一極集中の是正、日本海国土軸の形成および多核連携型国土の形成、さらには持続可能で暮らしやすい地域社会の創生のため、北陸地域にとって必須の社会インフラである。

当会としては大阪までの一日も早い全線開業に向け、引き続き政府に対して、着工や全線開業に向けた具体的なスケジュールを早急に明示されることを強く求めて参りたい。また、今回の北陸新幹線の敦賀開業を能登復興の起爆剤として、三県と一体となって北陸全体を盛り上げていきたい。

2023年度第2回国際委員会

日時: 3月22日(金) 12:20-13:30
場所: 金沢ニューグランドホテル
参加: 9名(会場6名、オンライン3名)

高納委員長は冒頭の挨拶で、能登半島地震の影響により特に観光産業が打撃を受けたが、北陸新幹線敦賀延伸の効果により、今後持ち直していくことを期待する旨、述べた。また、「ダイバーシティ&インクルージョン」の観点から、高度外国人人材、及び特定技能外国人労働者の受入が課題と強調した。

その後、2023年度事業計画の実施状況と評価・方向性、2024年度事業計画案について審議した。

特に、計画中の北陸・韓国経済交流会議の再開や北欧経済視察ミッション派遣等に関し、活発な意見交換がなされた。

その他、チャイナリスクの高まりを受けた「リスク回避と中国ビジネス拡大を両立させる施策」の要望、留学生の北陸での定着や高度外国人人材の活用に資する受入体制等に関する要望、更には当会事業や北陸地域の魅力の発信方法に関する提案等があり、今後の事業活動を進める中で鋭意検討することとした。



2023年度第2回新たな価値創出委員会

日時: 3月28日(木) 14:30-15:45
場所: ANAクラウンスラザホテル金沢
参加: 20名(会場10名、オンライン10名)

北村委員長は冒頭の挨拶で、北陸新幹線による経済活性化に期待を寄せた。また、北経連のGRP(域内総生産)目標達成に最も有効な設備投資によるDXと自動化等に関する優れた取組みを講演会等で紹介していきたいと述べた。

その後、2023年度事業計画の実施状況と評価・方向性、2024年度事業計画案について審議した。

実施状況の一環として、産学官金が連携して新事業を発掘し、成長を支援する事業「北陸RDX」の活動状況、その継続のための(株)RICH設立について、(一財)北陸産業活性化センターから紹介した。

委員からは、企業のDX・GXの推進、海外市場のサーキュラーエコノミーの浸透、カーボンニュートラルに関する大学の研究・教育、スタートアップと企業との連携、大学発スタートアップ創出プラットフォーム「TeSH」等について発言があり、今後の事業活動に鋭意反映させていくこととした。

新たな価値創出オンライン講演会

日時: 3月28日(木) 16:00-17:00
形式: オンライン開催(委員のみ会場参加)
参加: 60名(会場18名、オンライン42名)

立山科学(株)の今村省人 常務取締役・経営企画室長が「TATEYAMA KAGAKUが取り組むDX」と題して講演し、同社のデジタルなものづくり(スマート工場

活動報告

での製造DX)、デジタルな商品、デジタルな人材育成等について紹介した。

同社は、高度な技術を活かした電子部品、生産装置、システム・サービスの提供を通じて顧客のDXやカーボンニュートラルに寄与しているが、今後はグループ間のみならず北陸全体の連携に貢献し、事業環境の変化を乗り越えて成長していきたいと述べた。

その後、DXによる生産性・社員のウェルビーイングの向上や働き方改革、外部機関の活用、グローバル展開等に関して、活発に質疑応答がなされた。

同社の水口社長(新たな価値創出委 副委員長)は、グループの技術を結集したスマート工場建設がDX推進の契機となり、DX推進が同社全体の活性化や社員の士気向上、カーボンニュートラル、女性活躍にも繋がっているなど、その効果を力説した。



経団連との能登半島地震被災地視察等

日時: 4月3日(水) 10:00-17:30
場所: 石川県輪島市、七尾市等

金井会長と経団連 十倉会長、富田議長、永野副会長、久保田副会長・事務総長らが、能登半島地震の被災地を訪れ、大規模火災に見舞われた輪島朝市通りや、七尾市の和倉温泉等を視察した。

坂口輪島市長、茶谷七尾市長等との意見交換では、

冒頭、北経連・経団連から見舞金を贈るとともに、復旧・復興に不可欠な補助金の増額や延長等、政府への要望事項に関して意見を聞いた。

視察後は、金沢市内で「能登の産業復興・再生ビジョン(北経連が策定中)」について懇談し、方向性やコンセプトについて経団連から意見を聞いた。

十倉会長は「今回被災地を初めて視察し、肌感覚で被災の厳しさを痛感した一方、能登の伝統のすごさも感じた」と振り返った。また、金井会長は復興ビジョンについて「若い世代が将来に希望を持てるものにしたい」と述べた。



2023年度第2回人財活躍推進委員会

日時: 4月9日(火) 12:20-14:00
場所: 金沢ニューグランドホテル
参加: 13名(会場7名、オンライン6名)

八木委員長は冒頭挨拶で、「北陸新幹線敦賀開業当日の多くの人出に驚いたが、これを持続させることが我々の使命」と振り返るとともに、今後の交流人口増加に向け、北陸のものづくりを前面に押し出し、知識・経験・新しいアイデアのある人が、「北陸に行けば新しい

何かに出会える」と思えるような関係づくり、事業づくり、ヒトづくりが重要だと語った。

2023年度事業の実施状況、2024年度事業計画案の審議では、「女性、シニア等と拘らず、幅広くダイバーシティ&インクルージョンを捉えることで、本質的な課題が見えてくる」「男性育休や夫婦間の家事分担等、若年層の意識は変わっている。若年層はトップが変革に向かって自ら行動しているかを見ている」等、示唆に富む意見が多く出され、今後の事業活動に鋭意反映させていくこととした。

2023年度第2回観光委員会

日時: 4月10日(水) 12:20-13:30
場所: 金沢ニューグランドホテル
参加: 19名(会場18名、オンライン1名)

米沢委員長は冒頭挨拶で、能登半島地震の被災地を訪れ、被害の甚大さを実感する中、復興には多くの時間が必要であり、復興と観光振興・経済活性化の両方を目指す難しい舵取りが必要だと語った。

2023年度事業の実施状況、2024年度事業計画案の審議では、外国人観光客が増加する中、特定の観光地に集中している観光客を各地に分散させることや、観光DXによるデータの収集・活用、北陸新幹線敦賀開業を契機とし、北陸三県の事業者が更に多面的に連携し、観光やビジネスの機会を拡大することの重要性を確認し合った。

2023年度第2回社会基盤委員会

日時: 4月11日(木) 16:00-17:30
場所: ANAクラウンプラザホテル金沢
参加: 16名(会場14名、オンライン2名)

光野委員長は冒頭挨拶で、北陸新幹線敦賀開業により福井県等に多くの観光客が訪れていることを喜びつつ、これを持続させていくことが重要であり、大阪までの全線開業や高速道路など社会基盤の更なる充実が必要だと述べた。

2023年度事業の実施状況、2024年度事業計画案に関する審議では、北陸新幹線敦賀開業後の各地の状況や課題、能登半島地震の被害や復旧状況、復興に向けた課題等に関して、活発に意見交換を行った。



第15回中部社研時事フォーラム「スタートアップが中部圏に根差し、活力を与え続けるために」(後援:北経連)

日時: 4月12日(金) 13:30-16:30
場所: ナゴヤイノベーションズガレッジ
参加: 62名(会場26名、オンライン36名)

(公財)中部圏社会経済研究所がスタートアップ創出・育成促進を図るためのフォーラムを開催(北経連が後援)した。

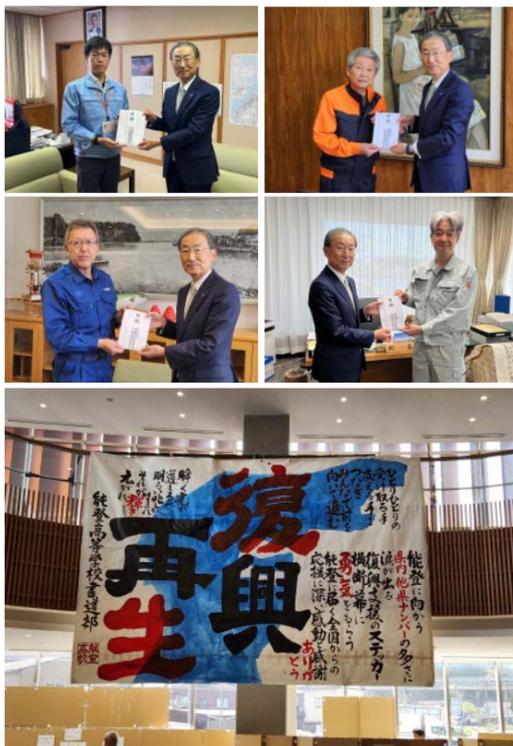
ビジネス創出の交流拠点である「ナゴヤイノベーター

活動報告

ズガレージ」田中事務局長が、シリコンバレーの経験を踏まえ、東海地区のエコシステムの状況と今後の課題について基調講演し、その後、金沢市に拠点を置く(株)ドローンショー・ジャパンの他、東海地域発のスタートアップ3社(株)MONA company、SyncMOF(株)、(株)DAOWORKS)が、各社のユニークな事業内容や今後の展望について紹介した。登壇者によるパネルディスカッションでは、起業した経緯や事業拡大に向けた課題、起業家が集うコミュニティ活用の重要性、行政に期待すること等について活発に意見を交わした。

志賀町・珠洲市・能登町・穴水町訪問

日時：4月19日(金) 9:00-16:30
場所：石川県志賀町、珠洲市、能登町、穴水町



金井会長は、経団連 十倉会長との輪島市、七尾市訪問(4月3日)に続き、能登半島地震で甚大な被害を受けた志賀町、珠洲市、能登町、穴水町を訪れ、稲岡志賀町長、泉谷珠洲市長、大森能登町長、吉村穴水町長と意見交換を行った。

冒頭、北経連・経団連の連名による見舞金の目録を贈呈した後、各首長から被災・復旧状況、今後の復旧・復興に向けた課題と対応に関する詳細な説明を受けた。会長は、首長はじめ職員の苦勞に謝意・敬意を表するとともに、復興を支援する制度の改善等について政府にしっかり要望していくと述べた。

2023年度 第3回総合対策委員会

日時：4月24日(水) 15:00-17:00
場所：ホテル日航金沢
参加：16名(会場14名、オンライン2名)

稲垣委員長は冒頭挨拶で、北陸地域の経済状況について、能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や生産回復により北陸全体として持ち直していること、北陸新幹線敦賀開業を迎え、経済界として萎縮することなく、成長に向けた投資を続けることで長期的な復興支援にも繋がりたいと述べた。

委員会では、2023年度事業計画の実施状況、2024年度事業計画案、研究機関との共同調査結果(①カーボンニュートラルの取組みによる域内総生産(GRP)向上策、②北陸新幹線敦賀開業を契機とした地域力向上策)、並びに現在策定中の「能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン」について活発に意見が交わされた。

特に、復興ビジョンへの関心が高く、「能登の復興を

北陸全体で支えていくメッセージがあると良い」、「復旧の途上にある中、表現や公表のタイミングについては慎重を期すべき」、「スマート・リージョン北陸の先進地を目指す位置付けは良い」等、重要な指摘が多くされた。委員会後は、今回初めて参加した委員も含めた懇親会で、交流を深めた。

富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会合同決起大会

日時：5月2日(木) 15:30-16:30
場所：ANAクラウンスラザホテル富山

富山県の北陸新幹線対策連絡協議会・県民協議会の合同決起大会が開催され、北経連から金井会長、関西経済連合会から蔭山リニア・新幹線専門委員長など約140名が参加した。

新田富山県知事は、2025年の大阪・関西万博等も見据え、大阪に新設する北陸三県初のアンテナショップ「ほくりくぶらす」も活用し、「更なる北陸の魅力発信、観光資源の磨き上げに取り組む」と述べた。



金井会長は、敦賀までの全線フル規格での開業を喜ぶとともに関係者に感謝し、地域発展に繋がりたいと述べた。また、全線開業時の大きな経済波及効果等に触れ、「一日も早い着工に向け関係機関に対し、早期の駅

位置・ルートの決定、環境影響書の作成を求めるとともに、関西の経済団体や北陸三県と緊密に連携し、関西での早期全線開業を望む機運醸成に全力で取り組む」と決意を述べた。

大会は、敦賀以西の一日も早い認可・着工実現のため、沿線住民の理解促進や必要な予算確保等を強く求める決議を採択し、閉会した。

Tech Startup HOKURIKU キックオフシンポジウム

日時：5月8日(水) 13:00-16:15
場所：ホテル日航金沢



文部科学省「大学発新産業創出基金事業(スタートアップ・エコシステム共創プログラム)」に採択された北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出プラットフォームTech Startup HOKURIKU(通称TeSH)の事業開始イベントが開催され、大学・高専、自治体、支援機関、ベンチャーキャピタル、企業等から多くの参加者が集まった。

冒頭、TeSH主幹機関である北陸先端科学技術大学院大学 寺野学長と金沢大学 和田学長が挨拶した。

金井会長は来賓挨拶で、「TeSHから数多くの大学・高専発のスタートアップが誕生し、日本のみならず世界に誇れる革新的なサービスや製品を提供する企業が多く現れ、北陸地域が日本の新事業創出の牽引役となるこ

活動報告

とを期待する」と述べた。

その後、スタートアップと地域創生に関する特別講演をはじめTeSH・大学発スタートアップ紹介、他地域のプラットフォーム紹介、北陸地域の各県の取組みとTeSHへの期待をテーマにしたパネルディスカッション等が行われ、会場は熱気に包まれた。

第1回政府要望ワーキング

日時：5月9日(木) 16:00-17:30
場所：ホテル日航金沢
参加：29名(会場19名、オンライン10名)

今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」の作成に向け、幅広い業種の会員企業の実務者クラスで構成するワーキングを開催し、事務局が作成した要望書の全体構成、新規要望事項の取り扱い等について議論した。

メンバーからは、「能登地震からの復旧・復興について、事業再開まで雇用を維持するには現行制度では不十分であり、拡充が不可欠」「人材不足が深刻化しており、リスクリング等による人材育成、生産性向上に取り組む企業への支援の拡充は必要」といった意見が出された。

次回6月3日(月)の第2回ワーキングでは今回の議論を踏まえ、要望書案を取りまとめる。その後、7月の総合対策委員会、常任理事会の審議を経て 要望書を決定し、8月1日(木)に都内で政府与党、関係省庁等への要望活動を行う。

第112回理事会・ 第361回常任理事会合同会議

日時：5月15日(水) 12:20-14:00
場所：ホテル日航金沢
参加：52名(会場44名、オンライン8名)

2024年度定期総会に付議予定の2023年度事業報告・決算、能登地域会員の2024年度会費免除、2024年度事業計画・予算、役員選任、並びに同日開催する理事会

に付議予定の役付理事・参与の各議案について審議し、原案どおり了承された。

役員人事については、常任理事2名の交代(株インテック顧問 牧野賢藏氏から取締役会長 北岡隆之氏、YKK(株)顧問 浅野慎一氏から副社長 黒部事業所長 小林聖子氏)、新任理事5名の就任(丸紅(株)北陸支店長 上垣雅裕氏、三井物産(株)北陸支社長 太田俊也氏、ホクショー(株)代表取締役社長 北村宜大氏、(株)アーバンホーム代表取締役社長 藤井佳代子氏、三菱商事(株)北陸支店長 三原克久氏)が内定した。



北陸新幹線建設促進大会・令和6年度北陸新幹線建設促進同盟会総会 北陸新幹線建設促進同盟会等合同中央要請

【大会・総会】
日時：5月22日(水) 10:30-11:50
場所：帝国ホテル東京

大会には杉本福井県知事、馳石川県知事、新田富山県知事、阿部長野県知事、三日月関西広域連合長(滋賀県知事)、関西経済連合会 松本会長、北経連の金井会長の他、沿線自治体の副知事、議会議長等が出席し、「小浜・京都ルート」の早期認可・着工を目指す決意を表明して、結束を確認した。

開会挨拶で杉本知事は、小浜・京都ルートの意義を改めて強調。2025年度の認可・着工実現に向け、「今年度は正念場の年」とし、駅位置や詳細ルートの早期公表を政府・与党に求めた。

金井会長は北陸経済界の代表として、「北陸新幹線は新大阪まで延伸してこそ本来の機能を果たし、大き

な経済波及効果に繋がる」と述べ、駅位置・ルートの早期決定、環境影響評価書の作成、全線開業に向けたスケジュールの明確化を求めた。



【中央要請】
日時：5月22日(水) 13:10-18:00
場所：衆議院第一議員会館、国土交通省、総務省、財務省

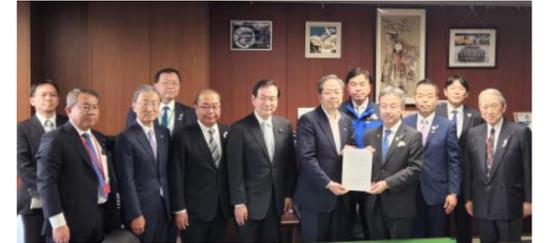
北陸新幹線の沿線10都府県でつくる北陸新幹線建設促進同盟会、沿線府県議会協議会、関西広域連合とともに、関西経済連合会の松本会長、北経連の金井会長が参加し、北陸新幹線の早期全線整備等について関係各所で要請した。

杉本福井県知事は、「小浜・京都ルートの1日も早い認可着工、これからの概算要求、年末の予算編成に向けた早急な駅位置・詳細ルートの公表」を求め、大きな地方負担について、「効果に見合った負担になるよう十分な措置の検討」を強く要請した。

金井会長は小浜・京都・新大阪のルートについて「今の構想が着実に進んでいると外から見て分かるような形で進めて欲しい」と要請した。

- ★主要要請先
- ・自民党 田村政調会長代行
 - ・PT関係 稲田議員、西田議員
 - ・公明党 石井幹事長、佐藤国対委員長、竹内議員
 - ・国交省 斉藤国土交通大臣、堂故副大臣

- ・総務省 松本総務大臣
- ・財務省 進藤財務政務官



※写真は斉藤国交大臣、堂故副大臣

2024年度 第1回 海外現地情勢報告セミナー ～ベトナム特集～

日時：5月30日(木) 14:00-15:30
参加：51名(オンライン)

冒頭、国際委員会の高納委員長は、近年、ベトナムが生産拠点や市場として有望視されており、最新の経済動向や中長期的なビジネス展開について理解を深めて欲しいと挨拶した。

その後、現地に精通した専門家ならではの視点から経済・情勢動向や消費市場の変化、中長期的なベトナム市場のビジネス展開について報告され、ディスカッションも含め臨場感のあるセミナーとなった。



①「ベトナムの経済概況と動向」
(株)双日総合研究所 情報調査室 副主任研究員 阿部智史氏

活動報告

②「ベトナム市場の現地ビジネス最前線」

双日ベトナム会社社長／双日㈱理事 水嶋恒三氏

③ディスカッション

「2030年のベトナム市場でのビジネス展開を探る」

モデレーター：(株)双日総合研究所 代表取締役社長

坂井一臣氏

パネリスト：水嶋恒三氏、阿部智史氏

第2回政府要望ワーキング

日時：6月3日(月) 13:30-15:00

場所：ホテル日航金沢

参加：30名(会場20名、オンライン10名)

今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」の作成に向け、幅広い業種から募った35社・団体の実務者で構成するワーキングの第2回会合を開催。

第1回会合(5/9)以降に聞かれた意見や、能登半島地震に関連した新たな要望事項等を織り込んだ要望書案について議論した。

参加者からは、「物流の2024年問題への対応について国の支援策が実態と乖離していないか、上手く機能しているかを見極め、要望すべき」、「北陸応援割は予算増加や割引率のみではなく、より多くの人々が利用できる持続可能な制度の構築が必要」などの意見が出された。

今後、理事以上の役員から意見を聴き、総合対策委員会、常任理事会の審議を経て決定し、8月1日に政府・与党へ要望する予定。



令和6年度福井県北陸新幹線建設促進 同盟会総会

日時：6月8日(土) 13:30-15:00

場所：ニューサンピア敦賀

福井県北陸新幹線建設促進同盟会の総会が敦賀市内で開催された。会長の杉本福井県知事や市町長、福井県選出の国会議員、関西経済連合会の榎原副会長、北経連から金井会長が出席した。

杉本会長は開会挨拶で、小浜・京都ルートが「唯一無二のルート」と強調し、「夏の概算要求や年末の来年度政府予算案決定に向け、一致団結して地元の熱意を届ける」と語った。

金井会長は、北陸新幹線の効果を最大限に発揮させるため、関係機関に「早期の駅位置・ルートの決定、環境影響評価書の作成を求めていく」と述べた。



「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」開催地決定記者会見

日時：6月11日(火) 13:30-14:30

場所：東京都内

国内最大級の旅行博「ツーリズムEXPOジャパン」は、例年、東京と大阪で交互に開催されているが、2025年は中部・北陸地域で初となる、「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」として開催されることが発表された。

主催団体(日本観光振興会、日本旅行業協会JATA、日本政府観光局JNTO)は、中部・北陸開催の意義について、インバウンド観光客の中部・北陸への分散や経済波及、能登復興支援、愛知ブランド・セントレアのPRが期待できると説明した。

また、開催地を代表して、中部経済連合会、愛知県観光協会、北経連が挨拶し、中経連の宮本常務理事が、「中部・北陸が一体となって地方への誘客を進めていく」、北経連の牧野常務理事が、「一日も早い震災復興のためにも観光を盛り上げて後押ししたい」と意気込みを示した。

「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」

【会期】2025年9月25日(木)～28日(日)

【場所】Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)

[中部国際空港(セントレア)に隣接]

【内容】展示商談会、セミナーなど、全国や海外から観光局や旅行会社、観光関係者が集結。9月27日～28日の展示会は一般参加OK。

中央日本総合観光機構 第8回定時総会

日時：6月18日(水) 13:30-15:00

場所：金沢市ITビジネスラザ武蔵

参加：約40名

中部北陸9県の広域連携DMO中央日本総合観光機構の総会が開催された。例年、名古屋で開催されていたが、今年は能登半島地震からの復興支援や、北陸新幹線敦賀開業効果の確認の観点から、初めて石川県で開催された。

水野明久会長(中部経済連合会会長)の挨拶に続

き、北陸新幹線の開業効果の分析結果が報告された後、企業の褒賞・研修旅行などMICE促進や、大阪・関西万博を機とした誘客促進など今年度の事業計画について審議・承認された。

総会後の交流会では、各地から集まった参加者を前に、副会長を務める金井会長が、能登の復旧・復興状況と復興における観光の重要性を説明した。



※機構では褒賞・研修旅行(MICE)について、企業の実施実態、ニーズを把握するためのアンケートを実施中です。本号の最終ページをご覧ください。是非、ご協力をお願いいたします。

北陸新幹線延伸開業記念 スタートアップピッチ (北経連：後援)

日時：6月26日(水) 13:30-15:30

場所：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(グランフロント大阪)

参加：約120名

(公社)関西経済連合会と(一財)うめきた未来イノベーション機構は、北陸新幹線の敦賀延伸を記念し、産業・観光振興において北陸と関西の連携を深めるため、北陸発スタートアップ企業の事業を紹介するイベントを開催した。

活動報告

まず、スタートアップ9社が生産性向上や社会課題解決に資するユニークな事業を紹介し、その後、北陸3県からスタートアップ育成や、7月末に大阪で開業する3県情報発信拠点「HOKURIKU+（北陸プラス）」を活用した観光振興、能登半島地震からの復旧・復興の取り組み等が紹介された。

- ①(株)アラリード（食品製造業向けシステム）
- ②(株)笑農和（遠隔・自動での水田管理ツール）
- ③(株)タッセイ（建設業の人手創出、工務店支援）
- ④(株)ドローンショー・ジャパン（ドローン広告）
- ⑤(株)ハリイ（女性向けスポーツウィッグ販売）
- ⑥ファーストトレード(株)（企業間取引の効率化）
- ⑦ファーマランタ(株)（微生物発酵を活用した製品）
- ⑧LABTECHS(株)（迅速無菌検査キット）
- ⑨Quiny(株)（ビールサーバー等、ロボット開発）

名刺交換会・個別相談会では、多くの関西企業がスタートアップ各社の代表者との交流を求め大行列ができるなど、大盛況だった。

2024年度 第1回総合対策委員会

日時：7月3日（水）12:20-14:00
場所：ANA クラウンプラザホテル金沢
参加：17名（会場15名、オンライン2名）

今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書（案）」について審議した。

冒頭、稲垣委員長は、北陸の経済状況を踏まえ、能登の産業復興や北陸への更なる投資促進には各種制度の充実、社会インフラの整備が欠かせないため、今回の政府要望は特に重要であると挨拶した。

要望案について、委員からは「東京一極集中打破のための人口流出防止は簡単でないため、もっと踏み込んだ表現にすべき」「半導体製造等の成長産業の誘致を考えるべき」「解体等の作業員不足が能登の復旧を妨げている。要望にあたり要因を把握しておくべき」

等、多岐にわたる意見が聞かれた。



第362回常任理事会

日時：7月5日（金）12:20-13:00
場所：ANA クラウンプラザホテル金沢
参加：35名（会場29名、オンライン6名）

冒頭、金井会長は北陸新幹線敦賀開業後の利用者増や敦賀・新大阪間の早期開業、能登半島地震からの復旧・復興等に触れ、協力の継続を呼び掛けた。

その後、定期総会以降の役員の補充選任、並びに8/1政府与党等に訴求する要望事項について審議、原案どおり承認された。

この他、会長から大阪・関西万博の開催について前売りチケット購入への協力を要請した。



北陸新幹線 早期全線開業実現大阪大会

日時：7月22日（月）13:30-14:30
場所：リーガロイヤルホテル大阪
参加：300名

大阪府や大阪市、関西経済界等が「北陸新幹線早期全

線開業実現大会」を開催。関西の行政や経済界の関係者約300人が集まり、北経連からは金井会長が出席した。

大会では、小浜・京都ルートによる敦賀・新大阪間の一日も早い認可・着工を求める決議を採択。このために必要な環境アセスの丁寧かつ迅速な実施、事業推進調査の先行的・集中的な実施、新大阪駅の早期の位置確定、地方負担軽減に向けた貸付料確保等を盛り込んだ。

主催者として、吉村 大阪府知事と鳥井 大阪商工会議所会頭が挨拶した。



北陸新幹線建設促進同盟会等 合同中央要請

日時：7月25日（木）
場所：自民党、衆議院第1議員会館、国交省等

北陸新幹線建設促進同盟会等の5団体は、一日も早い全線整備を求め中央要請を実施した。

沿線府県知事・副知事、北経連 金井会長、関西経済連合会 常陰副会長等が、敦賀以西の環境アセスの丁寧かつ迅速な実施、事業推進調査の先行的・集中的な実施、施工上の課題の早期解決、小浜・京都ルートの早期着工に向けたスケジュールの早急な明示等を要請した。



主な要請先は、渡海 自民党政務調査会長（写真中央）、西田 与党整備新幹線建設推進PT委員長、稲田 衆議院議員、佐藤 公明党国会対策委員長、中川 公明

党北陸信越方面本部長、松本総務大臣、堂故 国土交通副大臣、進藤 財務大臣政務官。

北陸新幹線建設促進 石川県民会議 令和6年度総会

日時：7月26日（金）11:00-12:00
場所：石川県地場産業振興センター
参加：300名

北陸新幹線建設促進石川県民会議の総会が開催され、一日も早い全線整備に向け、現行の「小浜・京都ルート」だけでなく、米原で東海道新幹線と接続する「米原ルート」も含めた検討を盛り込んだ決議が採択された。

名誉会長の馳 石川県知事は敦賀・新大阪間について「政府・与党は速やかに詳細ルートや建設費、工期などを明らかにしてほしい」と述べた。

金井会長は、金沢・敦賀間について、「今回の敦賀開業により北陸三県の主要都市が、概ね1時間で結ばれることから、接続型都市圏の形成による北陸三県の地域力向上が大いに期待され、今秋の北陸デスティネーションキャンペーン等を通して着実な地域の発展につなげたい」と述べた。

また、敦賀・新大阪間について、「大阪までの一日も早い全線開業に向け、関西の経済団体や北陸三県と緊密に連携し、関西での機運醸成にも全力で取り組む」と意気込みを語った。

大会には、石川県選出の国会議員、蔭山 関西経済連合会 リニア・北陸新幹線専門委員長、北村 国土交通省鉄道局 新幹線鉄道課長、田村 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設副局長が出席し、挨拶した。



2024年度 北経連スケジュール

開催日(予定を含む)	主要行事	備考
8月2日(金)	第31回北陸地域懇話会	金沢市
8月23日(金)	第51回三県知事との懇談会	福井市
8月25日(日)~28日(水)	第20回北陸(日本)・韓国経済交流会議	韓国 江原特別自治道 江陵市
9月10日(火)	第27回三経連経済懇談会	福井市 理事以上
10月 8日(火)	西日本経済協議会 第66回総会	岐阜県下呂市
11月20日(水)	第51回北陸地方経済懇談会(経団連との懇談会)	未定
12月10日(金)	第31回中部・近畿経済産業局との懇談会	金沢市 理事以上
12月18日(水)	第363回常任理事会	金沢市 常任理事以上
1月	新春経済懇談会	金沢市
日程未定	会員懇談会(年3回)	富山市/金沢市/福井市

北陸経済連合会《事務局》

(2024年8月現在)

専務理事	東田 隆一	課長	宮西 啓一
常務理事・事務局長	牧野 正広	課長	日野 恵美
事務局長代理	福井 聡	課長	宮原 史英子
部長	落合 章博	課長	宮下 愛美(7月1日着任)
部長	坂井 昭治	課長	澤田 晴美(7月8日着任)
部長	高畠 哲史	主席調査役	成瀬 元貴
部長	小島 正寛	調査役	松木 一也
副部長	鳥山 倫彦	副課長	越野 理恵
副部長	酒井 秀行		森岡 倫代
副部長	浅井 弘司		高縁 真希

新会員のご紹介 (2024年4月1日~2024年7月31日)

双日株式会社

(業種 総合商社)

中部地区管掌 兼 名古屋支店長 片岡 昇 様
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-10-20アーバンネット伏見ビル2F
Tel:052-202-3306 Fax:052-202-3506

トヨタモビリティ富山株式会社

(業種 自動車小売業)

代表取締役 品川 裕一郎 様
〒930-0018 富山市千歳町二丁目5番26号
Tel:076-432-4141 Fax:076-432-5172

新規会員ご紹介のお願い

「ウイズコロナ・ポストコロナ」の中で「スマート・リージョン北陸」を目指す
“北経連”への新規会員ご紹介をお願いいたします。

富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北経連(略称:北経連)は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

入会ご希望の皆様へ

入会資格: 本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人

入会金: 不要

年会費: 1口 90,000円(1口以上)

入会お申し込み: 下記、当会事務局までご連絡ください。

北経連事務局

〒920-0981
金沢市片町2-2-15北国ビルディング4階
TEL.076-232-0472 FAX.076-262-8127
HP <https://www.hokkeiren.gr.jp>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

東京事務所
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館24階北経連電力(株)東京支社内
TEL.03-3502-0471 FAX.03-3502-0460





訪れるたび、新しい物語が紡がれる。
あなただけの「北陸物語」に
出会ってください。

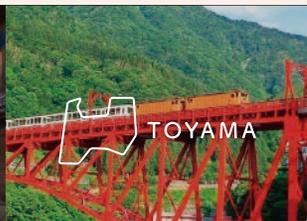
北陸物語HPでは、7つのエリア・7つのカテゴリから様々なスポットを検索できる北陸三県の情報をはじめ、
多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案、自分に合ったおすすめの旅を診断できる「ほくりく旅診断」など、
北陸をより一層楽しめるコンテンツが充実しています。ぜひ、ご覧ください。

北陸三県（富山・石川・福井）をつなぐ、唯一の広域観光情報サイト
北陸物語 <https://monogatari.hokuriku-imageup.org/>



2024年3月
敦賀延伸!

北陸新幹線早わかり



あなたにぴったりの
北陸旅がわかる
「ほくりく旅診断」

北陸物語事務局：北陸経済連合会・北陸イメージアップ推進会議

金沢市片町2丁目2番15号 TEL:076-232-0472 mail:kankou01@hokkeiren.gr.jp

北陸イメージアップ推進会議は、昭和61年9月に、北陸経済連合会と北陸三県（富山県・石川県・福井県）、北陸電力株式会社が共同で
北陸の正しい実態を広く北陸地域以外の人々に認識して頂き、北陸のイメージアップを図ることを目的として設立されました。



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号(北国ビルディング4階)

TEL(076)232-0472(代) FAX(076)262-8127

URL: <https://www.hokkeiren.gr.jp>

Email: info@hokkeiren.gr.jp